

令和 8 年 1 月 8 日
国土交通省関東地方整備局
道路部

ITS を活用した交通安全対策に関する実証実験を実施します

～自動車・自転車・歩行者をセンサで検知し、車載器や表示板等で注意喚起します～

千葉県千葉市内の見通しが悪い 3 箇所の交差点において、路上に設置したセンサで自動車、歩行者、自転車を検出し、検出した情報を双方に提供することで、接触事故の防止など交通安全の向上を目的とした実証実験を実施します。

(1) 実証実験期間：令和 8 年 1 月 13 日 から 令和 8 年 2 月 28 日 まで

(2) 実証実験場所：

箇所 1：千葉県千葉市稲毛区長沼原町 (いなげく ながぬまはらちょう)

箇所 2：千葉県千葉市稲毛区小仲台 6 丁目 (いなげく こなかだい 6 ちょうめ)

箇所 3：千葉県千葉市花見川区千種町 (はなみがわく ちぐさちょう)

(3) 実証実験の概要：次頁参照

<発表記者クラブ>

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、千葉県政記者会、千葉市政記者会

<問い合わせ先>

関東地方整備局 道路部

電話：048-601-3151 (代表) FAX：048-600-1385

道路計画第二課 課長補佐 三浦 (みうら) (内線：4252)

○実証実験の概要

近年、CASEをはじめ、AIやDX等、革新的技術の開発・普及が進む中、ITS（高度道路交通システム）の更なる進化が求められています。

こうした状況を踏まえ、交通課題の解決に加えて、社会経済活動にも貢献できる次世代のITSの実現に向け検討が進められています。

次世代ITSで取り組むべきサービスのうち、緊急性や社会的関心の高い社会課題を解決するために取り組むべきものについて、現在の技術等を用いた先行的な実証を「先行プロジェクト」として位置づけ、次世代ITSのサービスの具現化に向けた実証実験等を実施しています。（※）

本実証実験は、その一環として、見通しが悪い交差点箇所における安全確保のため、道路上に設置するセンサを用いて、自動車や自転車、歩行者をそれぞれ検知し、車載器やスマホ、表示板等で注意喚起を促すシステムを構築し、サービスの有効性（リアルタイムな情報処理、迅速な情報提供・表示、速度変化・衝突リスク軽減等の検証）、データの有効性（センサ（LiDAR）等による検知の精度、その他のデータの活用可能性・コスト比較等）、情報提供の方法（車載器での表示・発話／道路情報板への表示内容、タイミング）等を検証することを目的としています。

本実証実験の検証結果等については、注意喚起が必要な事故リスクの高い自動車・自転車・歩行者の挙動推定方法や車載器・道路情報板以外の機器も用いた適切な情報提供の方法等、次世代の交通課題解決手法の検討に活用することを予定しています。

※次世代ITS検討会（https://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/jisedai_its/index.html）



図1 イメージ

○実証実験協力者

以下の行政、企業に実証実験の協力をいただいております（五十音順）。

- ・千葉市
- ・沖電気工業株式会社
- ・トヨタ自動車株式会社
- ・パナソニックコネクト株式会社
- ・株式会社本田技術研究所

○位置図



図 2 位置図

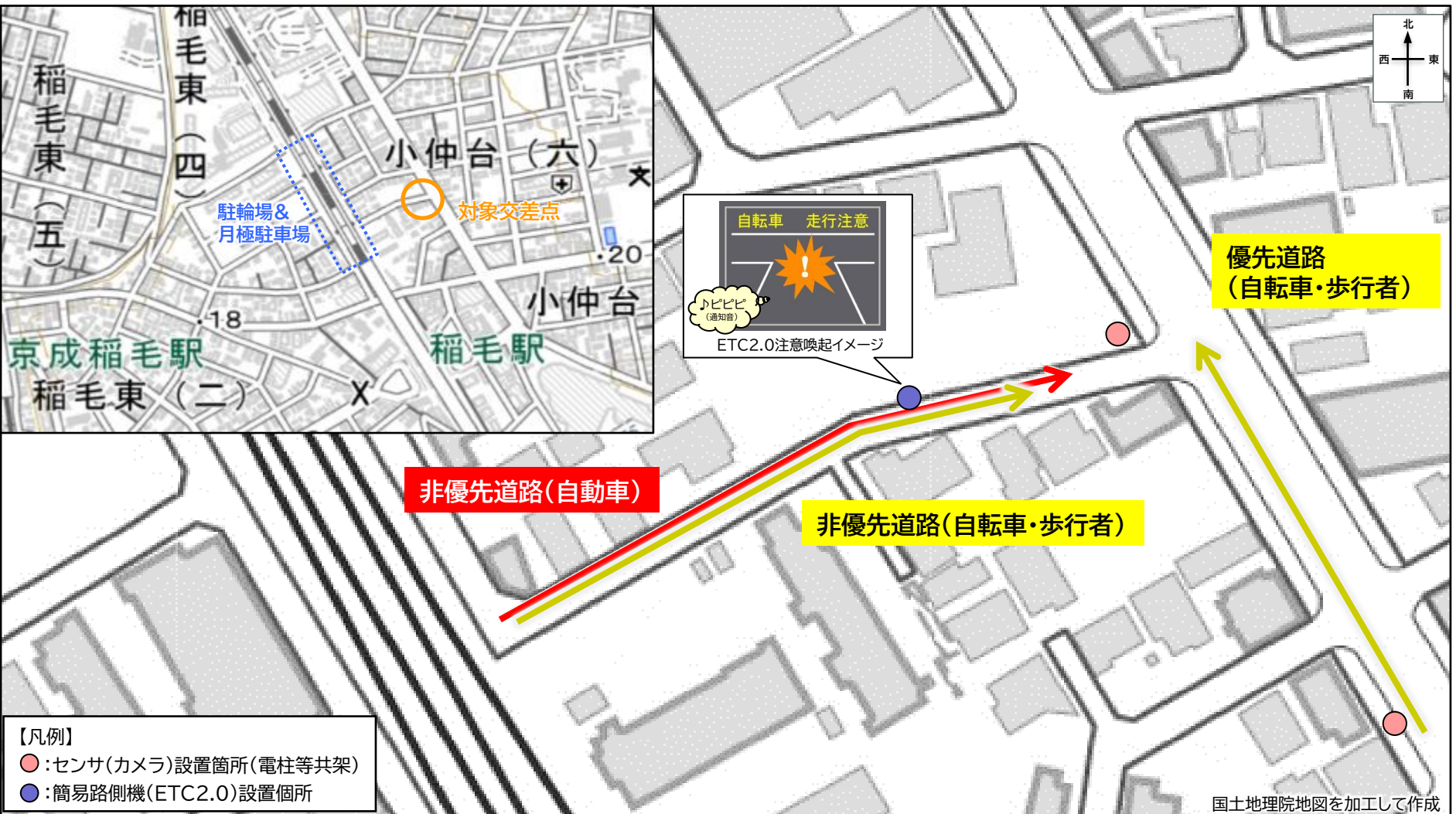
箇所1:千葉県千葉市稲毛区長沼原町 箇所図 及び 概要

- ・ 交差点へ流入する自動車に対して注意喚起を行う以下のユースケースを設定
 - ・ 検知: 東側から流入する自動車・歩行者 / 注意喚起対象: 西側から流入する自動車 (LED表示板)
 - ・ 検知: 西側から流入する自動車 / 注意喚起対象: 東側から流入する自動車 (ETC2.0搭載車)



箇所2:千葉県千葉市稲毛区小仲台6丁目 箇所図 及び 概要

- 交差点へ流入する自動車・自転車・歩行者に対して注意喚起を行う以下のユースケースを設定
 - 検知:優先道路の自転車・歩行者／注意喚起対象:非優先道路から来る自動車・自転車(ETC2.0搭載車、ITS Connect搭載車)
 - 検知:優先・非優先の双方の自動車・自転車・歩行者／注意喚起対象:自動車・自転車・歩行者(スマホの音声や振動)



箇所3:千葉県千葉市花見川区千種町 箇所図 及び 概要

- 当該交差点へ流入する自転車・自動車の双方へ注意喚起を行う以下のユースケースを設定
 - 検知:優先道路(自動車)／注意喚起対象:非優先道路(自転車)(LED表示板、スマホの音声や振動、ITS Connect搭載車)
 - 検知:非優先道路(自転車)／注意喚起対象:優先道路(自動車)(スマホの音声や振動、ITS Connect搭載車)

